

華やぐ道中絵巻

「大竹祭」

1



華やぐ道中絵巻

「大竹祭」

手づくりの飾りが自慢。各地区から6台の山車が繰り出します。今年の飾りは何だろうと、沿道から思わず身を乗り出す子どもたち。行列の最後尾、「大瀧太鼓」の地鳴りのような連打で、祭りは最高潮に達します。

大竹駅前から元町4丁目の疫神社までの道中は、華やかな祭り行列です。先導役の獅子や天狗が、子どもたちを怖がらせ、いなせな道中やつこの掛け声が響くと、巫女さんに乗せた宝船が、滑るように進みます。白装束の初老みこしが氣勢をあげ、子どもみこしが元気よく続けば、黒のシヤツ、真っ赤な前掛け姿もあてやかな華みこしが見物客の目を引きまします。



①祭り太鼓を仕切る男の波さがにじむ。②掛け声も高らかに、道中やつこが露払いを務める。③秋晴れのもとのでやつこ行列。額の汗が光る。

2



3



4



5

④獅子にガブリと。泣き出す子ども続出。
⑤大瀧太鼓の響きが観客を圧倒。



1



2



3

①丸に貳の字は二区(元町3丁目)②今年の飾りは弁財天。子どもたちが元気よく山車を引く。③ねじりはちまきの先っぽには鈴がある。



6



4

④世代を超えて受け継ぐ祭りばやし。⑤七福神もにっこりと子どもたちを見守っている。



5



7

⑥腹が減っては...と、もぐもぐタイム。⑦み年うま年の同級生が担ぐみこし。



8



9

⑧ワッセ、ワッセと掛け声高く、華みこし。⑨祭りを彩る赤い華。

10/21



(右) 訓練を統括する実施本部長の湯崎知事。(下) 7月豪雨の犠牲者に対して哀悼の意を表し黙とう。



大規模災害想定し訓練実施

晴海臨海公園

県の総合防災訓練と石油コンビナート等防災訓練の合同防災訓練が行われました。自衛隊、警察、消防、企業など66機関、総員800人が参加した合同での訓練は、県内初の試みです。地震、火災、車両事故などあらゆる災害が連鎖して発生する想定で、各機関が連携して任務にあたり、訪れた多くの観覧者を前に訓練は行われます

日本赤十字看護大学で、看護師を志す笠井郁花さん(20歳)は、事故で車内に閉じ込められた要救助者役を体験。「災害時の医療について勉強になりました」との感想。

訓練後、実施副本部長の入山市長は、「市民の安全を守るため、防災体制の充実を図りたい」と講評しました。



(右) 事故車両から救出される看護大学の学生。(右) 倒壊建物の撤去作業にあたる消防団員ら。



(上)ヘリコプターから懸垂降下し、救助に向かう自衛隊員。(中)消防、企業各社の高所放水車で、仮想の石油タンクを消火。(下)「訓練後の検証が大事」と、実況解説の神戸学院大の中田教授【写真右】。(右上)自衛隊特設の足湯でいい気持ちの広島市から来た姉妹。消防車にも乗せてもらいました。(右下)200人前の陸自カレーは大人気。「おいしかった」と廿日市市の塩田さん親子。



(右)西米から来た佐々木優和くん(2歳)もホクホクのお手に満足。



10月25日 全国を巡回中の「2020年東京オリンピック・パラリンピック」の公式フラッグが総合市民会館ロビーに展示されました。シンボルマークがあらわれたオリンピックは五輪の5色、パラリンピックは3色の旗です。和木町の女性は「大会が楽しみです」と、会場に旗がはためく日を心待ちの様子でした。



10月30日 解体予定で空き室となったの御園市営住宅2・3号棟で消防活動訓練をしました。消防署員は室内に煙を充満させ、濃煙状態での消防活動など実践的な訓練の数々。住民はベランダの仕切りを蹴破り、避難するという普段では行えない訓練を体験。緊急時にも行動できるように日頃の訓練が大切です。

歌も踊りも、秋真っ盛り

マロンの里

絶好の行楽日和に恵まれ、栗谷町のマロンの里では、2日間にわたり秋まつりが催されました。

初日の3日は、秋まつりのスタート前に毎月恒例の朝市も開かれ、地場野菜などを求めて、早朝からのにぎわい。朝市の新企画「今月は〇〇放題」では、サツマイモやジャガイモなど、6種類の旬な野菜のホイル焼きが食べ放題。

秋まつりのステージでは、小方中学校の吹奏楽、フラダンス、県民謡、バンド演奏などが繰り広げられ、会場を盛り上げました。



(右)春、秋のまつりに欠かせないバンドは、栗谷産の米「ヒノヒカリ」を歌詞に盛り込んだ、マロンの里応援ソングを披露。(上)ステージから飛び出でての熱演。小方中吹奏楽部。

イキイキ元気に！

ニコニコ楽しく！
総合市民会館・消防署周辺

秋晴れのもと「コイ・こいフェスティバル・イン・おおたけ2018」が開催され、約3万人の来場者でにぎわいました。ステージでは大竹一番太鼓、ジュニア童夢などさまざまなグループが演奏や踊りを披露。環境コーナーなど多くのアトラクションで来場者は楽しめました。また、消防署周辺では消防フェアが開催され、消火体験などに多くの人々が参加しました。黒川から訪れた直田ゆいちゃん(5歳)は「消火器を使うのは初めてで、楽しかった」と笑顔で話してくれました。



オーブニングを飾った大竹一番太鼓ジュニア童夢。

(右)環境コーナーで生きものに触れあった廿日市市から参加した升谷詩乃ちゃん(小2)は「カニの背中が硬かった」と楽しんでいた。(下)初めての消火活動。火は消えたかな。(左)子どもレスキュー隊。がんばって。



秋の湖畔を満喫

弥栄湖

公衆衛生推進協議会主催「市民ふれあい親子ハイキング」に49人が参加。弥栄ダムで施設見学の後、ダムと岩国市美和町の「レイクプラザやさか」までの往復10・6kmの道のりを歩きました。親子や仲間と秋の湖畔風景を楽しんだようです。



(右)本町から一家で参加の村中結里乃ちゃん(5歳)は、ガマズミの赤い実をかざしてポーズ。(左)ダム湖をバックに、仲良しグループ。弥栄の秋を満喫の様子。

